

白門経友会

第34回総会が開催されました

今年も猛暑の夏となりました。健康管理の難しい状況が続いておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

資料館見学会

白門経友会は、6月8日に第34回総会を開催いたしました。今回は、総会に先だって、経済学部棟のそばの炎の塔内に4月に開設されました、法と正義の資料館および大学史資料館の見学会を開催しました。法と正義の資料館では、法と正義、人権をめぐる歴史を学びます。本年度は企画展示室で、イタイイタイ病の被害者の救済をもとめて法廷で闘った松波淳一弁護士が資料が展示されています。大学史資料館では「創立以来の本学の歩み」を物語る資料が展示されており、特に駿河台校舎の講義室の一部が再現されているのが目を引きます。

※資料館：<https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/>

総会

総会は佐藤拓也経済学部長の挨拶から始まりました。経済学部の近況として、学部教員と附属高校教員と一緒に作って作った教科書『高校生からの経済入門』のこと、ゼミ活動を中心とした経済学部の伝統を引き継いで、新しい経済学部の姿を検討中であることを話されました。

二〇二三年度の活動報告、二〇二四年度の活動計画、役員人事が提案され、一部修正のうえ承認されました。

公開記念講演会

「社会政策の経済理論」

松丸和夫教授

その後、暫時の休憩ののち、松丸和夫経済学部教授による公開記念講演会を開催いたしました。

社会政策の経済理論の考え方に

ついて、日本の社会政策学会の発足（一九九六年）から話を始め、社会政策の理論の歴史的展開を説明されました。要所所で現代日本の労働政策の話題を挟み、最後まで聴衆を飽きさせませんでした。



新自由主義については（学生の答案によくあるように）「社会政策と相容れない」と安易に決めつけるべきではない。新自由主義にもいろいろある。

日本で社会政策の経済理論を最初に論じた大河内一男は、社会政策を、社会保障としてではなく、資本主義が安定的に持続するために労働力を保全する必要性から考えることが必要であるとした。

第2次大戦後、市場経済に対する基本的な政策では、GHQが財閥解体、農地改革、労働改革とともに、公正な市場取引と独占・寡占に対する規制を強めることが指示したことが重要である。それが「私的独占の

禁止及び公正取引の確保に関する法律」（独禁法）であり、第一条にある「公正」と「自由」の関係はどう考えるかが重要である。そもそも「公正」とはどのような状態であるかは法律では明示されていない。社会的公正を考える上でオールド自由主義が興味深い。社会政策は労働者のためだと考えられているが、それが良いか悪いかを判断するのは労働者である。

グローバル化した現在では、企業は自社のことだけを考えていけばよいわけではない。サプライチェーンの中で人権問題が生じていないか配慮することが求められている。

大学に入学した頃は「資本主義に未来はあるか」と議論されていたが、今は、地上には市場経済以外に経済制度はあるのかと思うようになった。市場経済が市場原理主義に終わるかは判断を差し控えるが、要は働く人の環境と生活が保障されることが社会政策の基本である。

社会保障負担について、それが逆再分配にならないようにするためにどうすればよいかを今考えている。

以上の講演会の後、ヒルトップ4階の四季にて懇親会を行い、松丸先生を囲んで楽しい歓談のときを過ごしました。

第34回定期総会資料

第1号議案 2023年度活動報告

I 会議

1. 2023(令和5)年度定期総会

日時 2023年6月10日(土) 14時

場所 7号館1階7103教室

- ▶第1号議案 2022年度活動報告及び決算報告
- ▶第2号議案 2023年度活動計画及び予算案
- ▶第3号議案 役員選任および役付き幹事の承認
- ▶第4号議案 その他

以上、原案通り承認されました。

引き続き、井村進哉教授より「27年間の授業・ゼミを振り返って」という演題で講演していただきました。その後、会場をヒルトップ2階(西側)に移して、懇親会を開催いたしました。

2. 常任幹事会

2023年6月2日(金)～8日(木)(持ち回り開催)

2024年1月26日

II 行事

経和会懇親会に参加

2023年3月1日に、経済学部教員の親睦会である「経和会」の懇親会(退職される先生方の送別会)に招待され、常任幹事も参加いたしました。その際、吉永匡宏さんに本会を代表して挨拶していただきました。

III 会報

- ▶第84号8月31日/第32回定期総会報告/第32回定期総会資料/え、あの先生が(章沙娟助教)
- ▶第85号1月10日/多摩キャンパスの今/学生によるキャンパス・レポート(白井嵩海、増井佳秀)/佐藤拓也経済学部長が再任/『やっぱり経済学はおもしろい!』の刊行/会報の記事の募集/え、あの先生が(中村彰宏教授)
- ▶第36号3月31日/[特集]経済学部における正課のインターンシップ(佐藤拓也学部長/平松裕子特任教授/八森舞)/第34回白門経友会総会のお知らせ/え、あの先生が(田中光教授)

第2号議案 2024年度活動計画

I 会議

1. 2024(令和6)年度定期総会

日時 2024年6月8日(土) 14時

場所 7号館1階7104教室

議題

- (1) 2023年度活動報告・決算報告
- (2) 2024年度活動計画・予算案
- (3) 役員選任および役付き幹事の承認
- (4) その他

総会終了後、公開記念講演を実施する。

時間 14時～

演題 「社会政策の経済理論」

講師 松丸和夫教授

懇親会

時間 16時30分～18時30分

会場 ヒルトップ4階「四季」

2. 幹事会

年3回程度、原則対面で開催する。

II 行事

- 1 学部授業・ゼミへの協力。学外および会員からの講師の推薦を経友会として協力支援する。
- 2 学部行事への協力。
- 3 会報などを通じて、「経済学部創立百周年記念奨学金」募金を支援する。
- 4 経済学部創設百周年記念奨学金基金に本会の余剰金の中から寄付する。
- 5 白門経友会会員同士の親睦を計り教職員及び学生との交流を深める行事を行う。
- 6 新しく開館した大学資料館、法と正義の資料館の見学会を開催する。

III 会報発行

会報「白門経友会」を年3回発行する。会報はホームページに掲載し、紙ベースでの発行を少なくとも年一回行い会員に配布する。

IV その他

- 1 学部の活動状況を会報を通して積極的に広報する。
- 2 多数が参加可能な講演等の開催。あるいはオンラインで可能な講演を行う。
- 3 白門経友会ホームページの内容の充実化のために、学生および外部有識者からの投稿を勧める。
- 4 「人格なき社団等」として口座を維持に当たって団体要件の確認が求められることを鑑み、会則の見直しに着手する。
- 5 以上の活動を通して入会呼びかけの強化。

第3号議案 役員選任および役付き幹事の承認

顧問：齋藤 巖、松丸 和夫

会長：佐藤 拓也(中央大学経済学部長)

幹事長：濱岡 剛

副幹事長：佐藤文博、鳥居 鈺太郎

常任幹事：安藤 馨、風間 俊範、鈴木 秀男、高梨明
宏、田中 右一、局 芳暁、吉永 匡宏、米
田 貢(あいうえお順)

監事：石橋敦史(経済学部事務長)、森元 公和

2023年度 決算報告書

自2023年4月1日 至2024年3月31日 (単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,312,488	総会・懇親会費	54,300
会費収入	209,826	会報発行費	61,875
懇親会費収入	51,500	HP維持費	26,400
寄付金収入(学員会)	30,000	交流費	6,000
受取利息	10	振込手数料	715
		通信費	23,520
		雑費	0
		小計	172,810
		次年度繰越金	1,431,014
合計	1,603,824	合計	1,603,824

次年度繰越金内訳

三井住友銀行八王子支店	普通預金	310,296
ゆうちょ銀行	通常貯金	843,837
現金		276,881
合計		1,431,014

2024年度 予算報告書

自2023年4月1日 至2024年3月31日 (単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,431,014	懇親会費	60,000
会費収入	200,000	会報発行費	120,000
懇親会会費収入	55,000	HP維持費	40,000
寄付金収入(学員会)	100,000	交流費	130,000
受取利息	8	振込手数料	1,000
		通信費	30,000
		雑費	20,000
		小計	401,000
		次年度繰越金	1,385,022
合計	1,786,022	合計	1,786,022

二つの資料館見学と

三〇年振りの総会に参加して

昭和四十四年卒 吉永匡宏

六月六日多摩キャンパスで開催された総会に出席した。総会に先立ち、新設された二つの資料館(法と正義、大学史)の見学が企画され参加することにした。各資料館とも常設展と企画展の二構成になっており、私は特に「法と正義の資料館」の特別展「医学者証言を覆せ」松波淳一弁護士(「医学者証言を覆せ」松波淳一弁護士)の奮闘に感銘を受けました。松波弁護士は郷里富山県で発生した「イタイタイ病」の被害者を救うため、医学的根拠を徹底的に研究し、加害者側に立ち国を擁護する医学専門家を相手に、全面勝訴を勝ち取ったことは被害者のみならず、多くの国民から「正義の証」として絶賛されました。松波弁護士は苦学して中大を卒業、司法試験に合格、どんな困難に負けない不撓不屈精神は母校の誇りと伝統に大いに寄与しました。偉大な先輩に続くよう後輩も頑張らねばならないと思います。イタイタイ病は神通川上流の上岡鉱山から流れ出るカドミウムが原因でした。

私の母は富山県射水市の出身で生

家は今も稲作を継続しております。立山連峰を望む風光明媚で、立山を水源とする豊富で美味しい水、米と純米酒は特筆すべきものがあります。富山県は富山市の中心を流れる神通川と、高岡市と射水市の中心部を流れる庄川の二大川があり母の生家は庄川沿いにあります。富山県人にとって「水」の美しさは誇りと言えますので、公害病発生のショックは計り知れないものがあつたと思います。医療訴訟は今後コロナワクチン後遺症問題もあり、注目される場所です。この資料館は奥野善彦弁護士の寄付によるものが大ださうです。学内外に資料館をPRし、中大の存在感を認識してもらう絶好の機会と思います。

資料館見学後、発足総会から三〇年振となる今年度の総会に参加しました。確か経済学部結束、「法学部何するものぞ」の気概で設立された白門経友会、発起人も実力ある大学常任理事、政財界の名士がつらなっており、盛大な総会であつたことが印象に残っています。今回は静寂とした会場、あまりの様変わりになつたような変遷を辿つたのか理解解したい思いでした。

しかしながら、多忙にもかかわらず

ずご出席の白門経友会会長で経済学部部長佐藤拓也先生の開会のご挨拶、所定の総会議事を経て、松丸和夫教授の特別講演、その後の懇親会と有意義に過ごしました。

松丸先生は社会政策のご専門であり、私の入学した昭和四〇年当時の学部部長矢島悦太郎も社会政策で父と大学同期でした。父は私の入学試験の直前に急逝、経済的には厳しくなりましたが、中大経済学部には父と交流のあつた多くの先生方が在籍されていられることを入学後に知り、心の支えとなりました。母校経済学部に心より感謝しています。

白門経友会を主に支えてくださっている、濱岡剛先生、鳥居鉦太郎先生、佐藤文博先生に御礼申し上げます。



(大学史資料館にて 中央が筆者)

編集後記

本号は六月八日の総会の様子をお伝えします。ご参加いただいた方々、講演をお引き受けいただいた松丸先生、レポートをお願いした吉永さん、ありがとうございました。今回の総会では、通例の公開記念講演会に加えて、資料館見学会を企画しました。館内を案内していただいた資料館スタッフの方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

(幹事長 濱岡 剛)

引き続き、「経済学部創立百周年記念奨学金」へのご寄付を募っています

詳細は中大WEBサイトにて。経済学部トップから赤色のバナーをクリック。スマホはQRコードから。



2024年8月31日 第87号
発行 白門経友会常任幹事会
編集 白門経友会編集委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野 742-1
中央大学経済学部内
URL : www.wg-keiyukai.com
Fax : 042-673-3425